

# 法政アクティブリサーチ 成果報告書

(2019年後期～2020年前期)



龍谷大学  
RYUKOKU UNIVERSITY



## はじめに

2017年度に新設された法学部科目「法政アクティブリサーチ」も三期目を迎え、学生にとっても教員にとっても少しずつ定着して来ているように感じる。そのことを示す一つとして、受講者数の増加・安定化が挙げられる（2017年度 50名、2018年度 35名、2019年度 53名）。このようなことは普通であればそのまま科目としての成熟に繋がるのであるが、法学部としては特徴的な本科目の性質ゆえに、一方で新たな課題の発見など試行錯誤の度合いが更に深まっているというのもまた率直な感想である。しかしこのことは、昨年度の成果報告書「はじめに」の言葉を引くならば、「失敗も成功も含め私たち教員にとってのFD実践を行う科目という位置づけ」の「実験講義」としての本科目にとっては寧ろ誇るべき要素であると考え。本報告書は、受講した学生たちを第一として教員・事務職員・ARスタッフも合わせた一年にわたる苦闘の結果を、様々な形でご協力いただいた関係各所の皆様のお力添えを得て纏めた活動成果と言える。

昨年度の報告書に記載されて以降の取り組みとしては、本報告書内に所掲の共通講義と各クラスの個別的活動に加えて、法政アクティブリサーチ第二期生合同報告会（2019年6月19日開催）、夏季オープンキャンパスにおける活動報告（2019年8月3・4・24・25日開催）などが行われている。また、報告書の内容を法政アクティブリサーチ専用HP (<https://www.law.ryukoku.ac.jp/activeresearch/>) にて公開し、その他の活動内容についても同HPおよび専用ブログ (<https://ryukokulaw.blogspot.com/>) にて学内外へ発信している。（但し、後述の通り、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年に比べると限定的となっている。この点については、現在検討中である。）

今年度の活動について特記すべき要素として、新型コロナウイルスの影響を挙げない訳にはいかない。本報告書記載の取材活動は、十分な配慮の下で行ったものであることをまずは記しておく。

2020年初から猛威を振るい始めた新型コロナウイルスの感染拡大状況は、概ね年末から年始頃に決定されるヒアリング計画にも多かれ少なかれ影響を与え、その実施可否に始まり、事後のフォローにおいても困難な状況を様々に現出させた。また、大学における議論・検討の機会や図書館利用の制限なども含め、その影響は本報告書の作成にも及んだ。このことは、そもそもこれまでに経験したことのない「社会」と接する特殊な科目で、数多くの戸惑いを体験しながらも何とか乗り越えて来ていた学生たちにとって、想定を超える厳しいハードルが突如として登場したような感覚であったように思われる。本報告書からは、そのような困難にもめげることなく、寧ろこれを乗り越えることによる「成長」を視野に果敢に邁進して来た彼らの姿もまたうかがうことができる。

こうして何とかほぼ予定のスケジュール通りに本報告書が完成に至ったことは、学生たちの粘り強い努力に加えて、年度末・初の想定外の混乱の最中にも関わらず、最後まで誠実かつ丁寧にご対応いただいた関係各所の皆様のご協力の賜物と呼ぶに尽きるものである。また、そもそも本科目は実施に当って、共通講義やクラス別のフィールドワーク活動を中心に多くの方々による多大なご協力をいただくことで成り立っていることは勿論である。ご協力いただいた皆様方には心より御礼申し上げますと共に、いち早く「社会」と関わる中での「学び」の機会を得た受講生たちの「成長」を以て本当の感謝に代えさせていただきたい。

2020年7月1日

龍谷大学法学部 法政アクティブリサーチ運営委員会

2019-20年度 法政アクティブリサーチ科目担当教員

畠山 亮（委員長）、牛尾洋也、斎藤 司、今川嘉文

## ～総目次～

はじめに	龍谷大学法学部アクティブリサーチ運営委員会 2019-20年度 法政アクティブリサーチ科目担当教員 畠山 亮 (委員長)、牛尾洋也、斎藤 司、今川嘉文
ポストコロナ社会における大学のアクティブ・ラーニングの意義と可能性	牛尾洋也
「法政アクティブリサーチ」畠山クラス 2019年度の活動を振り返って	畠山 亮
法政アクティブリサーチでの失敗と経験、そして学生・教員のアクティブな学び	斎藤 司
「実家の『空き家』化への対策～空き家の利活用推進事業の実態と対応提案～」の考察を通じて	今川嘉文
第三期(2019年度後期～2020年度前期) 法政アクティブリサーチの記録	野間元綺
各クラスの調査報告書	牛尾洋也クラス、畠山 亮クラス、今川嘉文クラス、斎藤 司クラス
おわりに	斎藤 司

## 牛尾 洋也クラス

### 静岡県・山梨県における地域資源の活用と独自の取組み ～人々の「つながり」と「継承」～

はじめに

#### 第一章「世界農業遺産における協働のあり方」

文責：大井葉月・小畑智仁・山脇真奈・和田竜弥

I 世界農業遺産とは	p 43
II 調査地	p 44
III 考察	p 58
IV 総括	p 60
V 法政アクティブリサーチからの学び	p 60

#### 第二章「自己責任から相互扶助の社会へ～就労・学習支援及びフードバンクの観点から～」

文責：久保 智朗・田畑 篤志・狭間 美優・宮川 恵和・柳 晴夏

I 総論	p 62
------	------

II 調査地	p 73
III 考察	p 104
IV 総括	p 107
V 法政アクティブリサーチでの学び	p 111

### 第三章「私たちの環境と暮らし」

文責：岸本 拓己・清水 彩加・田村 あゆみ・長谷川 祥吾

I SDGs と生物多様性	p 113
II 調査地	p 121
III 考察	p 137
IV 総括	p 138
V 法政アクティブリサーチからの学び	p 139

おわりに

## 鳥山 亮クラス

現代のまちに「歴史」はどう活かされるか  
～歴史的観光地で「光」と「影」を探る～

はじめに

### 第一章 ヒロシマ原爆からみる未来

文責：石東菜々子、石原賢太郎、井上美有哉、小橋真理香  
高田陽香、田沢咲英、三嶋雅也、横谷美咲

I 広島原爆の悲劇	p 148
II 原爆ドームの保存	p 156
III 広島平和記念資料館における海外への伝承	p 167
IV 核廃絶に向けて	p 176
V 被爆体験伝承者養成事業について	p 187
VI ろう者の原爆体験の伝承について	p 195

### 第二章 広島安芸高田市における神楽の継承と観光資源

文責：花原尚樹

I はじめに	p 207
II 無形文化財「神楽」と安芸高田市の概要	p 207
III 調査内容	p 210
IV 調査結果に対する考察	p 213
V 結論	p 215

### 第三章 宮島の観光と文化財

文責：池田樹里、加藤清楓、上窪沙弥、米田圭佑、澤田真依、吉川岳志

I	はじめに	p 217
II	総論	p 217
III	調査内容	p 230
IV	考察	p 237
V	おわりに	p 239

総括

謝辞・法政アクティブリサーチでの学び

おわりに

## 今川 嘉文クラス

### 実家の「空き家」化への対策 ～空き家の利活用推進事業の実態と対応提案～

I	本研究・調査の目的	p 248
II	空き家に対する行政および税務上の対策	p 249
III	空き家バンクの役割と実態調査	p 254
IV	空き家の利活用推進事業の紹介と課題	p 266
V	空き家の管理方法の選択肢	p 277
VI	空き家の賃貸方法の選択肢	p 281
VII	空き家のテナント入居利用	p 284
VIII	空き家の売却方法の選択肢	p 285
IX	空き家の相続対応の課題	p 289
X	空き家の相続放棄の検討	p 292
XI	心理的瑕疵がある不動産の扱い	p 293
XII	相続財産管理人・不在者財産管理人による管理	p 296

## 斎藤 司クラス

### 東日本大震災からの復興とまちづくり ～防災・市民によるまちづくりの観点から～

はじめに

第1編 東日本大震災について

- I 防災班の調査目的と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 308
- II 宮城県庁土木部防災砂防課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 310
- III 仙台市役所危機管理減災推進課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 317
- IV 女川町における「景観と防災の両立」について・・・・・・・・・・ p 329
- V 原子力発電と共存するという可能性・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 336
- VI 小括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 349

第2編 震災からのまちづくり

- I はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 353
- II 未曾有の災害を乗り越え、高み目指す宮城県・・・・・・・・・・・・・ p 354
- III 塩竈市～市民と共に歩む町～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 360
- IV 町民と共に発展していく女川町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 372
- V まちづくり班の総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 383
- VI おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 384

**おわりに**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **斎藤 司**